

# 研究員 の眼

## ドリームジャンボの期待 2024

能登半島地震の被災地支援に向けて

保険研究部 主席研究員 篠原 拓也  
(03)3512-1823 tshino@nli-research.co.jp

今年もゴールデンウィークが終わり、また仕事に精を出さなくてはならないつらい日常が戻ってきた。この時期は、体調を崩したり、気持ちが落ち込んだり、といういわゆる「五月病」を起こす心配がある。これは、新年度で気を張って過ごしていた疲れがどっと出て、職場に行く気力が失せてしまうことが原因と言われている。五月病は、適応障害の場合が多く、不安やうつの症状に至ることもあるという。

そんな五月病の症状を和らげるかもしれない宝くじが発売開始となる。5月8日発売開始の「ドリームジャンボ宝くじ」だ。最高当せん金は、1等前後賞合わせて5億円と高額に設定されている。

今回のドリームジャンボ宝くじは、「能登半島地震被災地支援」と銘打って行われる。実は、4月に発売されたインターネット専用くじ「クイックワン」でも、同様の支援が行われた。クイックワンでは数億円と見込まれる収益金の全額、ドリームジャンボ宝くじでは収益金のうち40億円が被災自治体に優先的に配分されることになっている。

同様の被災地支援の宝くじは、1995年の阪神・淡路大震災や2011年の東日本大震災をはじめ、最近では16年の熊本地震、18年の西日本豪雨で行われてきた。宝くじの復興財源としての機能が生かされてきたわけだ。今回も、被災した地域の復興に宝くじが役割を果たすことが期待されている。

くじを買うことで、被災地の復旧・復興に貢献することができる。被災地への応援という思いが加わることで、くじを買う意欲もさらに高まるだろう。

### ◆ ドリームジャンボは、当せん金1000万円や100万円の当せん本数が大幅に増加

今回発売されるドリームジャンボ宝くじには、他のジャンボ宝くじと同様、「ジャンボ」と「ジャンボミニ」の2つがある。このうち、「1等前後賞合わせて5億円」のうたい文句で発売されるのは、ド

リームジャンボだ。この5億円という当せん金は、年末ジャンボ(10億円)、サマージャンボ(7億円)につぐ高額で、ハロウィンジャンボと同じ金額に設定されている。

これに対して、ドリームジャンボミニの当せん金の最高額は、1等前後賞合わせて5000万円に設定されている。

それでは、まず、ドリームジャンボから詳しく見ていこう。昨年の宝くじと比べて、当せん金、当せん確率、当せん金の期待値の主な変更点をまとめると、次のとおりとなる。

(ドリームジャンボの主な変更点)

- (1) 当せん金1000万円の2等の当せん本数が、昨年の1ユニット(1000万枚)あたり2本から、今年は4本へと倍増
  - (2) 当せん金100万円の3等の当せん本数が、昨年の1ユニットあたり70本から、今年は200本へと2.86倍に増加
  - (3) 当せん金5万円の4等が新設され、当せん本数は1ユニットあたり1000本とされた
  - (4) 当せん金1万円の5等(昨年は4等)の当せん本数が、昨年の3万本から、今年は1万本へと3分の1に減少
- (くじ1枚300円に対する当せん金の期待値は、149.99円のまま変わらず)

	当せん金	当せん確率	1枚300円に対する当せん金の期待値
1等	300,000,000	0.00001%	30
1等の前後賞	100,000,000	0.00002%	20
1等の組違い賞	100,000	0.00099%	0.99
2等	10,000,000	0.00004%	4
3等	1,000,000	0.002%	20
4等	50,000	0.01%	5
5等	10,000	0.1%	10
6等	3,000	1%	30
7等	300	10%	30
合計			149.99

今年の宝くじでは、(1)と(2)で、当せん金1000万円の2等と当せん金100万円の3等の当せん本数が大幅に増やされている。そして(3)で、当せん金5万円の4等が新設されている。一方、(4)で、当せん金1万円の5等の当せん本数が減らされている。これらの増減により、組み替えが行われたことになる。

この、「当せん金 1000 万円の 2 等と当せん金 100 万円の 3 等の当せん本数が大幅に増やされる一方、当せん金 1 万円の 5 等の本数が減らされる」という組み換えは、昨年の年末ジャンボや、今年のパレタインジャンボと同様の動きだ。「〇〇ジャンボ」のトレンドと見ることができる。すなわち、最近のジャンボ宝くじは、当せん金 100 万円以上の高額当せんに重点を移しているといえるだろう。

それでは、100 万円以上の当せん金を当てるには、どれだけくじを買ったらよいか？ 計算してみると、100 万円以上の賞金が当たる確率は 0.00207%なので、この数字の逆数をとることにより、平均的には、4 万 8310 枚のくじを買えば 100 万円以上の賞が 1 本当せんするという結果になる。

これだけの枚数のくじを買えば、100 万円未満の複数の当せんも期待できる。平均的には、4 等 4 本、5 等 48 本、6 等 483 本、7 等 4831 本の当せんが期待できる。こうした 4 等から 7 等の当せんにより、平均的に、当せん金 357 万 8300 円が受け取れる。100 万円以上の賞の当せんと合わせて、457 万 8300 円以上の当せん金の受け取りが期待できることになる。

ただし、1 枚 300 円のくじを 4 万 8310 枚買うためには、1449 万 3000 円が必要となる。たとえ 3 等 100 万円が 1 本当せんして 457 万 8300 円の当せん金を受け取ったとしても、991 万円以上もの持出しとなってしまふ。大量購入を考える場合には、購入額と当せん金の受取額の関係に十分注意しておく必要があるといえるだろう。

ドリームジャンボは、「『1 等前後賞合わせて 5 億円』の一攫千金を中心に、100 万円以上の高額当せんを狙うための宝くじ」と位置づけられる。

#### ◆ ミニは、1 等の当せん本数が 2.5 倍に増加

いっぽう、ドリームジャンボミニはどうか。ドリームジャンボと違って、当せん金の最高額は 1 等前後賞合わせて 5000 万円にとどまる。だが、その分、1 等の当せんの可能性は大きい。

ドリームジャンボミニについて、当せん金、当せん確率、当せん金の期待値の主な変更点をまとめると、次のとおりとなる。

(ドリームジャンボミニの主な変更点)

- (1) 当せん金 3000 万円の 1 等の当せん本数が、昨年の 1 ユニット (1000 万枚) あたり 4 本から、今年は 10 本へと 2.5 倍に増加
- (2) それとともに、当せん金 1000 万円の 1 等の前後賞の当せん本数も、昨年の 1 ユニットあたり 8 本から、今年は 20 本へと 2.5 倍に増加
- (3) 当せん金 100 万円の 2 等の当せん本数が、昨年の 1 ユニットあたり 100 本から、今年は 300 本へと 3 倍に増加
- (4) 当せん金 1 万円の 3 等の当せん本数が、昨年の 6 万本から、今年は 1 万本へと 6 分の 1 に減少

(くじ 1 枚 300 円に対する当せん金の期待値は、150 円のまま変わらず)

## ドリームジャンボミニ

(円)

	当せん金	当せん確率	1枚300円に対する 当せん金の期待値
1等	30,000,000	0.0001%	30
1等の前後賞	10,000,000	0.0002%	20
2等	1,000,000	0.003%	30
3等	10,000	0.1%	10
4等	3,000	1%	30
5等	300	10%	30
合計			150

今年の宝くじでは、(1)と(2)で、1等前後賞合わせて3000万円の当せん本数が2.5倍に増加している。また、(3)で、当せん金100万円の2等の本数が3倍増となっている。一方、(4)で、当せん金1万円の3等の本数が6分の1に減少となっている。これらの増減を通じて、組み替えが行われたことになる。つまり、100万円以上の高額当せんにシフトしたわけだ。

ドリームジャンボとドリームジャンボミニの高額当せんの内容を比較すると、両者の違いが見えてくる。ドリームジャンボミニをドリームジャンボと比べると、1等の当せん確率が10倍大きく、また当せん金100万円の当せん確率が1.5倍大きくなっている。

ドリームジャンボミニは、「5000万円の超高額当せんを中心に据えつつ、当せん金100万円以上の高額当せんも狙いたいという超高額当せん狙いのくじ」と位置づけられるだろう。

### ◆審議会では「ジャンボ・ミニとも100万円以上の当たりやすさを重視」

今回のドリームジャンボ宝くじに関しては、1月に、総務省の地方財政審議会が開催され、そこで発売許可について審議が行われた。その審議の様子が、同省のホームページ上で公開されている。

(議題) 今回の議題は、当せん金付証票法に基づき、令和6年度における当せん金付証票(宝くじ)の発売について許可するに際し、当せん金付証票法第4条第3項の規定に基づき、審議するものである。

(要旨) 標記の件について、説明を受け、審議の上、これを了承した。

そのなかで、賞金体系について、つぎのような質疑応答がなされた。

(質問) 「ドリームジャンボの賞金体系はどのようにするのか」

(回答) 「アンケート調査等を踏まえ、ジャンボ・ミニともに、最高当せん金を維持し、また、100万円

以上の本数を増やして当たりやすさを重視。ミニは、1等の当たりやすさをPRするため、1等の本数を大幅に増加。」

つまり、ジャンボ・ミニともに、100万円以上の本数を増やし、特にミニは1等の本数を大幅に増加させるとの回答だ。運営サイドが、高額当せんの当たりやすさを高めようとしていることがわかる。

この回答内容を見ると、やはり、今回は100万円以上の高額当せんが狙い目と言えるだろう。

#### ◆ 5億円の一攫千金か、5000万円の高額当せんか

以上のように、今回のドリームジャンボとドリームジャンボミニは、ともに、100万円以上の本数が増やされた。両者の違いは、1等の当せん確率にある。

なにがなんでも、「5億円の一攫千金を狙いたい」ということであれば、ドリームジャンボがおすすめとなる。1等が当たる確率は1000万枚に1本で、昨年の年末ジャンボの場合（2000万枚に1本）と比べて2倍に設定されている。

一方、「5000万円の超高額当せんを目指す」ということであれば、ドリームジャンボミニを買うのが理にかなっていると言えるだろう。

宝くじの醍醐味である一攫千金を狙って、ドリームジャンボを買うか。それとも、超高額当せんを目指して、ドリームジャンボミニを買うか。どちらも買うとしたら、それぞれの枚数は何枚ずつにするか――。

今年のドリームジャンボ宝くじは、5月8日から6月7日まで発売され、抽せん日は6月20日とされている。発売期間は、1ヵ月ある。

くじを買ったあとは、抽せん日まで、「もし5億円が当たったら…」、「□□万円の当せん金を手に入れたら…」などと夢想して、ドキドキ感やワクワク感を存分に味わう。そうすることで、五月病が吹き飛んでしまえばしめたものだ。

さらに、今回の宝くじは、収益金の一部が能登半島地震の被災地支援に役立てられる。すなわち、くじを購入することで、被災地の再生に貢献できる。復旧・復興への願いを込めつつ、くじを買うのもよいと思われるが、いかがだろうか。

(参考資料)

「宝くじ公式サイト」(全国自治宝くじ事務協議会のウェブサイト)

「令和5年度地方財政審議会(1月26日)議事要旨」(総務省ウェブサイト)

「ドリームジャンボなど宝くじ収益を被災自治体へ 能登半島地震で」(朝日新聞デジタル, 2024年2月9日)

「被災地支援の宝くじ 来月1日から発売へ」(NHK ニュースサイト, 2024年3月29日)